

自然環境保全再生分科会（第 24 期・第三回）議事録

＜開催日時＞2018 年 11 月 2 日 15 時～17 時

＜出席者（敬称略）＞

委員：鷺谷、吉田、一ノ瀬、安福、安田(Skype)、森本

参考人：東佑亮氏（国交省）、江川和隆氏（環境省）、滝勝也氏（農水省）

オブザーバー：宮澤泰子氏（環境省）、山本康仁氏（環境省）

1. 前回議事録の確認
2. 自然再生推進法に関わる自然再生基本方針の改定案について、環境省・農水省・国交省の担当者からヒアリングを行い、以下のような意見交換を行った。
 - ・自然再生協議会を増やす目的は、フラッグシップとしての役割、科学的視点から手法の妥当性をチェックできる、情報や経験が共有できるシステムによって効果的な自然再生が可能である、といったことがあげられる。ただし、数を増やすだけでなく、既存の事業を支援する取り組みも大切である。
 - ・活動資金がないと持続可能な活動になりにくい懸念がある。
 - ・うまくいっている事例をデータベース化して情報を共有できるとよい。
 - ・自然再生事業を生態系の防災・減災に展開するには、効果が定量化できたほうがよい。
 - ・自然再生事業が発展しつつ、関連する研究者が増えていくことも必要。
 - ・これまでは個別の生態系や自然環境を対象にした再生事業が主流だったが、「地域循環共生圏」の目標に照らすとややスケールの大きな再生事業の展開が必要。
 - ・関係者が目標を共有すること、長い時間スケールで目標を設定することが重要。
3. 課題別委員会における「人口縮小社会における野生動物管理に関する検討」の審議状況について、鷺谷委員長より報告があった。
4. その他、山極会長からの「平成 30 年度における予算枯渇に関するご理解とご協力のお願い」について事務局より説明があった。鷺谷委員長より、年度内の自然環境保全再生分科会の会議開催は今回を最後とする旨、メンバーに伝えられた。

以上